

はじめに

学校という場は、多くの場合は「元気」な子どもたちが集団生活をして過ごす場所です。成長過程にあって活発に活動する子どもたちが大勢集まっている場所では、突然の事故が発生したり、様々な形で身体不調になる子どもたちがいても不思議ではありません。学校の保健室は、あたかも、夜間・休日の救急外来（初期救急）だと称されたりもします。軽症な者も大勢いるのですが、中には重症な者も含まれているかもしれない、のです。

学校の保健室は医療機関とは異なり、傷病者を検診したり治療するところではないので、検診器具も整備されていないなか、初期の症状を示す、場合によってはなんら大きな症状をその時点では示さない子どもたちに対して、救急処置をしなければなりません。そのため学校では、医療機関とは異なるアセスメント能力が求められています。学校で行う救急処置・救急看護については、医療機関の看護とは異なる独自性があり、それは養護教諭の専門性と言えましょう。養護教諭は日々の実践が適切なものであるか否かを検証していく責任を負っています。

本書は、学校救急看護の基本を追究している養護教諭たちと、診療にかかわっている多くの実践家（医師、看護師）の協働のもとにできあがったものです。養護教諭は心身両面から子どもの健康問題をとらえ、また、子どもの日々の暮らしを大事にしながら子どもに対応しています。それらの過程で養護教諭は多様な形でアセスメントをしていることになりましたが、本書においては、特にフィジカルアセスメントを中心にとりあげました。

本書の特色は、実際の保健室を使って、養護教諭が保健室での対応場面をDVDで示し「見て学ぶ」ようになっています。本書は、若手の養護教諭や養護教諭志望者たちに見て学んでいただきたいと作成していますが、ベテランの方々、さらには子どもの教育活動に関わっている多くの方々にも活用していただきたいと願っています。

幸い、多くの方々に本書（DVDを含む）が歓迎され、活用されています。今回、第3版を発行するにあたり、読者からのご意見を踏まえながら内容の吟味に努め、文章の記述を改めています。ご高覧いただき、さらにご意見をいただければ幸いです。

2015年1月

編著者一同